

日本歴史の流れ

1977
作品ナンバー0147

文部省選定 第33回東京都教育映画コンクール金賞

縄文時代から現代までの日本歴史の流れを、映画でとらえたこの作品は、諸外国との交流が活発化する現代、国の内外において日本と日本文化についての理解に役立っている。



世界史の一環として日本の歴史をみると、それはまれにみる幸福な歴史であった。アジアの果ての島国で、航海の困難な時代には侵略者の手もここまでは届きかねた。まれに来ても世界の情報と文化を日本にもたらすだけの少人数だった。それも世界史の節目節目に訪れている。しかも日本にはそれを受け入れるだけの素地がいつもできていた。日本人は海外の新しい文化に対して、好奇心に満ち、寛容だった。一万年近い昔の、縄文時代のことはよくわからない。縄文文化をもつ民族が、無土器時代の人が住んでいたこの島に大陸から渡来したのかもしれない。

しかしそれからは、帰化人との混血はあったにしても、原日本人が、日本語という言葉をもつ単一民族として本来の資質を保って生き永らえてきたのである。そして日本人は、すぐれた外来文化を常に積極的に取り入れて、これを常に創意工夫によってわがものとして、独自の文化を発達させてきた。映画はこのことに着目して、飛鳥時代の中国文化の摂取と平安時代におけるその日本化、安土桃山時代における南蛮文化の渡来、幕末から明治にかけての、西洋文化の影響などを重点的に描きつつ、日本歴史の全体像に迫っている。

記録

35ミリ

カラー／33分

日・英・仏・伊・西・
葡・独・タイ・インド
ネシア・マレーシア・
韓・中国語版

■企画

(財)国際教育情報センター

■監修

東京大学名誉教授
坂本太郎

スタッフ

■製作

村山英治

■脚本

松川八洲雄

■演出

村山正実

■撮影

加藤和郎

■音楽

長沢勝俊

■解説

伊藤惣一